

屋島 概要

屋島（字義どおりには「屋根の島」）は高松市中心部のすぐ東にそびえる火山台地です。その名が示すように、屋島はかつて狭い海峡で四国本土から切り離された島でした。しかし、1600年代に埋め立て工事が行われ、その水域を陸地にしました。現在では歩いて、車を運転して、あるいはバスで、頂上に向かうことができます。晴れた日には、頂上からの高松市域と瀬戸内海の島々の眺めは感動的なものになり得ます。過去には、その眺望のために屋島は戦略地点になりました。この台地の砦が初めて言及されたのは、西暦720年に完成した日本書紀でのことです。数世紀後の1185年には、屋島の東側に位置する壇ノ浦が、ライバル関係にあった武家の平氏と源氏の有名な戦いの戦場になりました。この屋島の戦いは源氏が勝利し、その後平氏を壊滅させて、やがて鎌倉幕府を樹立しました。鎌倉幕府は1192年から1333年まで日本を支配しました。歴史的な関心の対象となる屋島のもう一つの場所は、四国遍路八十八ヶ所の第84番札所である屋島寺です。8世紀の創建と伝えられるこの寺院は、1618年建立の国指定重要文化財である本堂が最も注目に値します。